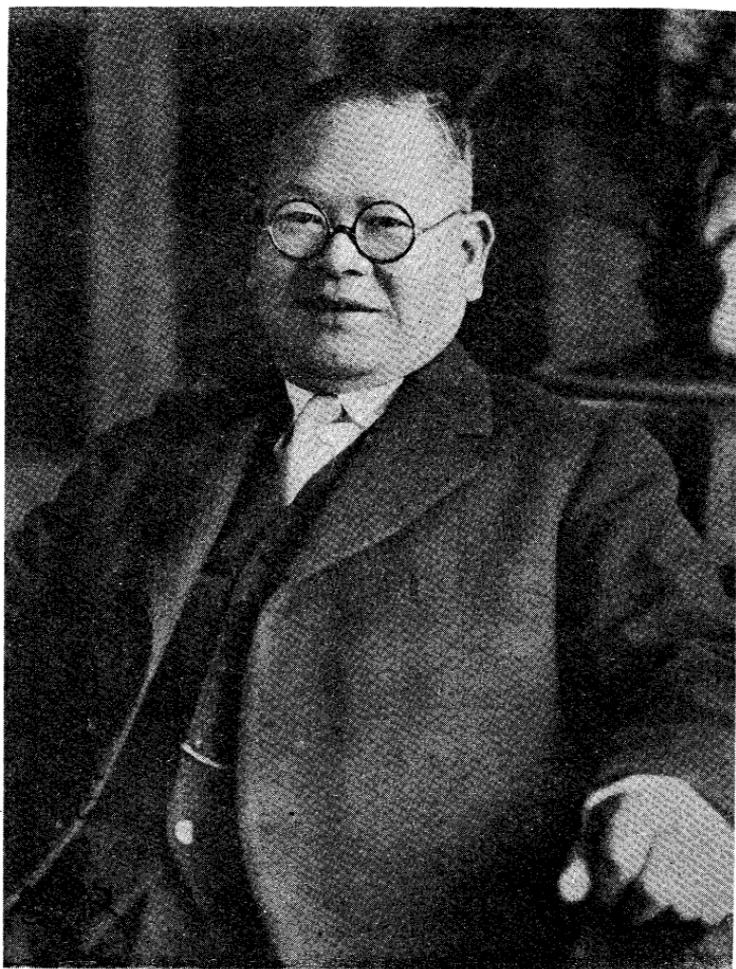


煙洲漫筆

鈴亦達治



## は し が き

私は先に「自由教育の佛」「六ツ川夜話」「入愚亭獨嘯」の三書を著述して、我校友諸君に頒布、後者は豫約販賣の方を以て、購讀を煩はした。今から六年前の昭和十九年に、生徒主事渾大防教授から、明二十年は高工創立二十五年に相當するので、校友の事業の一として、學校二十五年史の編纂を、私に希望せられた。文句なく喜んで私は承諾した。

後で考へて見ると、二十五年度の學校歴史を作るに、徒らに關係公文書を参照し、一方私の記憶を呼び起し、經年的に編纂したのでは、無味乾燥で、讀みものにならないやうな氣がした。其れよりも、學校として、公にしない、裏面で起つた出來事を編輯した方が、興味的であると思はれる。所謂學校の裏面史である。處で學校の裏面史となると、多分に私の身の上話が出て來る。私の經歷を書くため、校友や學生諸君に、お世話をかけるこ

とは、お氣の毒な感じが致し、また私もこの様なことを考慮して善處に迷ひ、一方渾大防教授から、其れきり何の音沙汰もないので、筆を取る氣になれなかった。

其の内創立二十五年の年は、苦しい海陸の戦や、恐怖すべき空襲の連続の裡に、慘澹たる敗戦となり、記念すべき年も過去になつてしまつた。しかし學校の歴史を書くことは忘れた事はなかつた。

或日煙洲會の會合の席上で、偶々其の話が出ると、居合せた會員諸君から、異口同音に、「それは煙洲會でお世話をする、發行者ともなる」と申出でて、私を激勵せられた。私も乗り氣になつて、昨年秋の中頃から、朝耕夕讀のひまひまに、筆を取り續けた。既刊三冊の中にも、學校歴史の片鱗は、所々に散見して居るので、成るべく重複を避け、私の日誌を参照し、記憶を辿り、漸くにして原稿を作り上げた。

内容は學校の裏面史に限らず、他の方面にも亙つて居る。其れであるから、裏面史でもなければ、又回顧録でもない。色々なものが雜居して居るので、書名を煙洲漫筆と題した。

中には可なり古いものも、採擇してあり、記載の順序も全く不同であります。昭和十七年入愚亭獨嘯以後、時々發表した隨筆は、原稿の散逸したため、殆んど採用出來なかつた事は、残念とする所であります。

何れにしても、記載してある事は、私身邊の些事で、廣く世間に示すことを耻するものである。只私の親愛する校友や、學生諸君の一讀を煩はし得ば、幸甚これに過ぎないのである。出版までにはまだ時日は相當にあると、油斷をして居る間に、冬去り、春去り、夏も將に過ぎんとして、急にあわて出した。原稿を送った後で、あれを削除し、これを添加したかつたと、氣づいたことも、多々あつたが、時日は之を許さなかつた。猶行文未熟で、文語體や、國語體が、チャンポンに入り混じり、一層惡文化したことも、残念である。

猶本年は、本校及商工高等學校の、創立三十周年に相當するので、此の小冊を記念の年に刊行して、私の祝意を表し得ることは、實に本懐これに過ぐるものはありません。

終りに本書發行者として、各方面に於ける努力と、激勵を恭ふした煙洲會同人諸君の御

厚情に對し、深甚の謝意を表します。

昭和二十五年八月三十日

四

煙洲 鈴木達治八十叟

目次

はしがき

1. 草分けの頃

横濱高等工業學校の創立

一頁

商工實習學校設立の由來

六頁

校庭の樹木

十四頁

寄宿舎の借金建築

十八頁

2. 荊のみちを

建築工學科の新設

二十三頁

建築學科のサルコッション騒ぎ

二十六頁

中村順平君

三十二頁

大 陸 會

三十八頁

横濱工業懇話會

四十二頁

高等商業學校との同居

四十七頁

3・我意を得たり

無賞罰主義私辯

五十一頁

震災記念獎學資金と互助主義十錢會

五十七頁

震災直後の會計検査の大狼狽

六十頁

震災直後の校舎の移轉問題

六十三頁

横濱工業高等學校の前身を語る

六十六頁

造船工學科及航空學科の新設

七十一頁

煙 洲 會

七十七頁

4・懐しの人々

父母の思出	八十一頁
文部大臣岡田良平氏	八十六頁
山本政人君	九十一頁
原三溪先生	九十六頁
韓國人李誠七君	百六頁
傭外國人教師レーゲンス・ブルゲル君	百十一頁
中村房次郎翁	百十七頁
5・心を痛めるもの	
三溪原富太郎翁逝く	百二十九頁
西園寺公を悼む	百四十七頁
校友戦歿諸君の靈に告ぐ	百五十二頁
噫！清水博士	百五十八頁

6・生みの苦しみ

我國窒素工業の黎明と横濱

百六十五頁

第一次大戦に於ける化學工業調査會の起源

百八十一頁

南洋 旅行

百八十五頁

眞崎大和鉛筆會社の起源と櫻井三千三君

百九十二頁

金屬鎚起製品と玉川堂

百九十六頁

7・身邊多事雜事

奇妙な校長の馱り沙汰

二百五頁

減俸問題と濱口内閣への挑戦

二百九頁

赤化思想の侵入

二百十六頁

學校と火災

二百二十一頁

8・招きつ招かれつ

卒業式に於ける名士と來賓

二百二十五頁

横濱刑務所の落成式に招かれて

二百二十七頁

名教自然碑の除幕式に招かれて

二百三十頁

### 9・紫煙隨想

萬里の長城

二百四十一頁

學生劇とヴェヒシユタインのピアノ

二百五十頁

學校と自動車と運

二百五十四頁

聖壽萬歳の御染筆

二百六十一頁

ゲーテの抑損と知足

二百六十七頁

煙福

二百七十二頁

噫！落第

二百七十五頁

失ひたるもの

二百八十一頁

チャーチルとチェンバレン

二百八十四頁

「藤原銀次郎回顧八十年」を讀みて

二百八十九頁

皇立自然科學研究所設立是非々々

二百九十七頁

10・詩

篇

防 空 壕

三百五頁

煙 草 禮 讚

三百五頁

失 題

三百五頁

謹 聽 御 放 送

三百六頁

最 後 御 前 會 議

三百六頁

戰 災 廢 墟

三百六頁

自 給 自 足

三百七頁